資料 5

双葉郡教育復興ビジョン推進協議会
「ふるさと創造学教員研修会」　実施報告

2016 年 5 月 13 日

1） 実施概要

日　　時： 2016 年 4 月 21 日（木）13:30～16:30

場　　所： 富岡町教育委員会 会議室（郡山市桑野 2-1-1）

テ ー マ：　- 3 年目を迎えた「ふるさと創造学」の学びの質を高めるには -
「総合的な学習の時間」を中心とした探究的な学習のプロセスの充実と発展、
「ふるさと創造学」指導計画のブラッシュアップについて探る

講　　師：　文部科学省初等中等教育局 視学官　田村学先生

プログラム：

時間	内容	
13:30	**1.　開会挨拶** 石井賢一・富岡町教育長	5 分
13:35	**2.　講義・ワークショップ導入** 田村学・文部科学省初等中等教育局 視学官 石井賢一・富岡町教育長	40 分
14:15	- 休憩・移動 -	10 分
14:25	**3-1. 教材研究ワークショップ（ 小/中高分科会）** ※冒頭、校長による「ふるさと創造学」に関する意見交換を別室にて実施	45 分
15:00	- 休憩・移動 -	10 分
15:10	**3-2. 教材研究ワークショップ（全体会）** • 分科会内容の共有 • 「課題設定」場面の授業づくりワーク・講義	55 分
16:05	**4.　質疑応答**	10 分
16:15	**5.　資料解説**	10 分
16:25	**6.　閉会挨拶** 畠山熙一郎・浪江町教育長	5 分
16:30	閉会	

2） 参加者

所属	人数（名）	詳細
浪江町	5	小学校（4）中学校（1）
葛尾村	3	小学校（1）中学校（2）
双葉町	4	小学校（2）中学校（1）教育委員会指導主事（1）
大熊町	4	小学校（4）
富岡町	7	小学校（3）中学校（4）

川内村	2	小学校（1）中学校（1）
楢葉町	2	小学校（1）中学校（1）
広野町	2	小学校（1）中学校（1）
ふたば未来学園	1	
福島県	3	義務教育課（1）、高校教育課（2）
その他	9	ビジョン推進協議会関係者、等
合計	42 （名）	

3) プログラム内容・要旨

１．開会挨拶（石井賢一 富岡町教育長）

「ふるさと創造学」は、学校の中で探究的なプロセスを回しながら、子供たちにこれからの社会で必要な資質・能力を育もうという取組だ。

2030 年までに 65%もの仕事がなくなると言われている中で、今子供たちに付けさせようとしている力は本当に役立つものなのか。どんな資質・能力を身に付けさせるべきなのか。今日の研修を通じて、考えてほしい。

2-1. 講義（田村学・文部科学省初等中等教育局 視学官）

- 「ふるさと創造学」への期待

「ふるさと創造学」は、次期学習指導要領改訂の方向性を先取る取組として文部科学省としても注目している。ふるさと創造学サミットを見ると、探究のプロセスを自覚的に進めていることで、子供たち一人ひとりに着実に力がついてきていることがわかる。

全国的に、探究的に学んでいることと学力（学力調査における B 問題）には相関が出ている。1 年目から確実にステップアップしてきたものをさらにブラッシュアップしてほしい。

- 学習指導要領の改訂と総合的な学習の時間

新学習指導要領は、社会に開かれた教育過程をつくることを目指している。何を知っているか・できるかだけでなく、知っていること・できることをどう使うか、どのように社会と関わり、生きていくかという、育成すべき学力の 3 つの柱を踏まえ改訂が進められている。

今後は、さらなる授業改善とカリキュラム・マネジメント及び学習評価の充実が求められる中、総合的な学習の時間は、各教科等間の相互の関連付けや教科横断的な学びを行うものとして、指導要領の改訂においても核とされている。

- カリキュラム・マネジメントの充実―育成する資質・能力を踏まえた単元づくり

総合的な学習の時間は、育成する資質・能力を学校目標等に基づき各校で定めることができ、学校の特色・子供の実態に応じオリジナリティが出せる。学習内容（何を学ぶのか）と学習活動（どのように学ぶのか）は、この育成したい資質・能力と照らし合わせて計画する必要がある。

2-2. ワークショップ導入（田村学・文部科学省初等中等教育局 視学官、石井賢一・富岡町教育長）

- 現場の意識として、探究のプロセスを回すことはできたものの、「課題設定」に難しさを感じている。総合的な学習の時間では「子供たちが自分で決める」「教師が課題を決めてはいけない」

という認識があり、気になるのではないか

- 探究のプロセスが発展し深まっていくには、次の課題に向けた気づきがあり、教師がそのプロセスを通じて子供たちは何を学んでいるかを把握していることが大切だ。その教材を通じ、何を学ぶことができるかという教師の気づき、意識によって課題の質は変わる

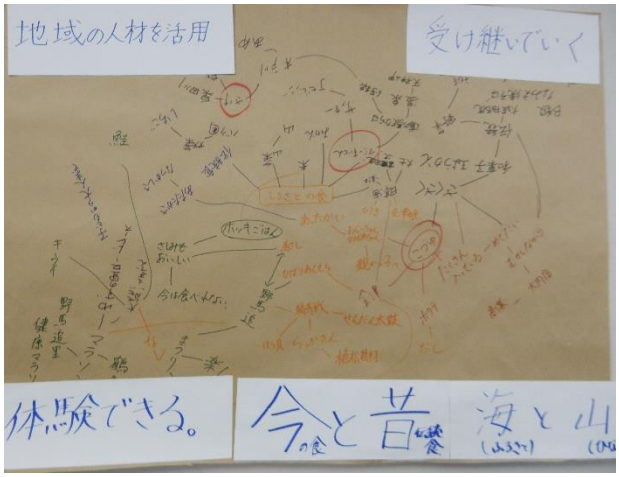
3-1.教材研究ワークショップ（小/中高別グループワーク）

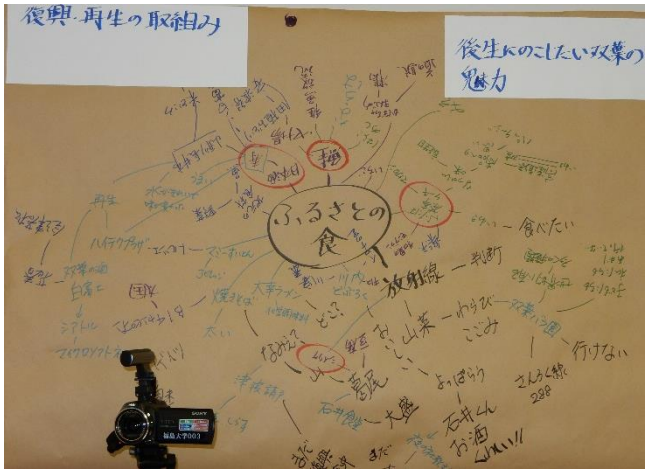
- 教材アイデアを挙げていく
  - 小学校「ふるさとの食」、中高「ふるさとを支える人びと」をセンターワードに、教材となり得るアイデアを 6 人グループで出していきウェビングマップをつくる
- 出されたアイデアから教材を選ぶ
  - アイデアの中から、子供にとって価値ある教材になり得るものを 2~3 点選ぶ
- 教材選びの視点を整理する
  - 教材を選んだ際の視点を話し合って 2~5 点にまとめ、短冊に書く

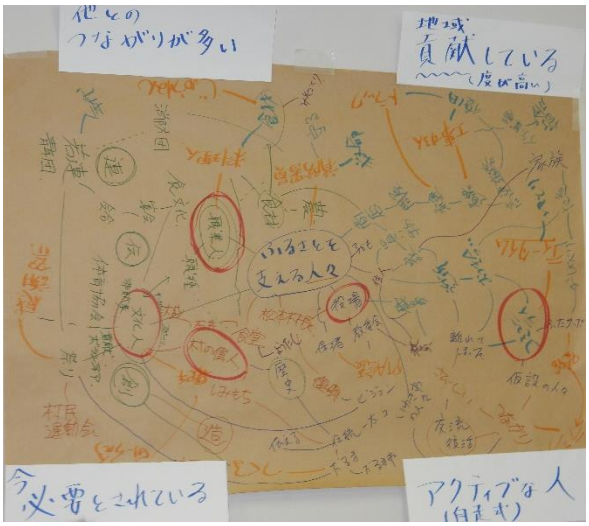
※　冒頭、校長による「ふるさと創造学」に関する意見交換を別室にて実施

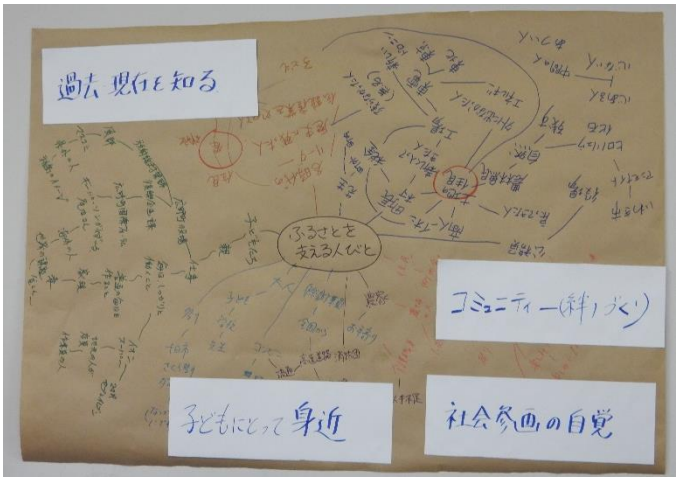
3-2.教材研究ワークショップ（全体会）

- 各グループワークの内容共有
  - 小学校①：さけ、マミーすいとん、こづゆ
    視点＝今 vs 昔、海（浜通り）vs 山（避難先）、体験できる、地域の人材活用・受け継いでいくもの
  - 小学校②：日本酒、鮭、双葉茶亭、しいたけ
    視点＝復興再生への取組、後世に残したい・誇りを持てる双葉の魅力
  - 中学校①：職業人、文化人、村の偉人、コミュニティ、役場
    視点＝地域貢献度、アクティブな人、今必要とされている人、他とのつながりが多い
  - 中学校②：祭り、土地の住民
    視点＝子供にとって身近、社会参画の自覚、絆づくり、ダークなものは除く









- 各グループから出された視点の中で特に大切な視点を考える
  - 絞り込まれた視点
    - ✓ 子供にとって身近であること（実際にふれられる、体験できる、自分事と考えられるなど）
    - ✓ 地域の人材に出会えること（キャリア教育上の身近な先輩、社会とのつながりも人を通して見えたほうがより具体的に感じられる、なぜやるのかなど気持ちまで見えてくるなど）
    - ✓ 双葉郡ならではの取組、復興再生の取組と重なること（地域としての強みになる）
  - 教材を選ぶ視点はいくつかにブレイクダウンできること、そして優先順位があることを教師自身が踏まえておくことが重要
- 「課題設定」場面の授業づくりワーク
  - 出された教材を使って課題設定場面・活動のアイデアを考える（個人→グループで共有）
- まとめ講義
  - どのように発話を指示するかによって話し合いは変わる。教師が意識的に指示することで子供たちの話し合いは活性化する
  - 子供たちの主体性は教師の指導力によって伸びる。主体的な学びは教師の授業力・腕にかかっている
  - 暮らしの中には問題状況がある。例えば比較などを通じ問題状況を把握できる状態にすると問いが顕在化される。子供のうちにある問いを顕在化し、学びに向けるのが教師の役目。顕在化のパターンとしては、問題状況への違和感、理想状況に対する憧れの大きく２つ。総合的な学習の時間では、こうした過程を丁寧に行っていくことができる

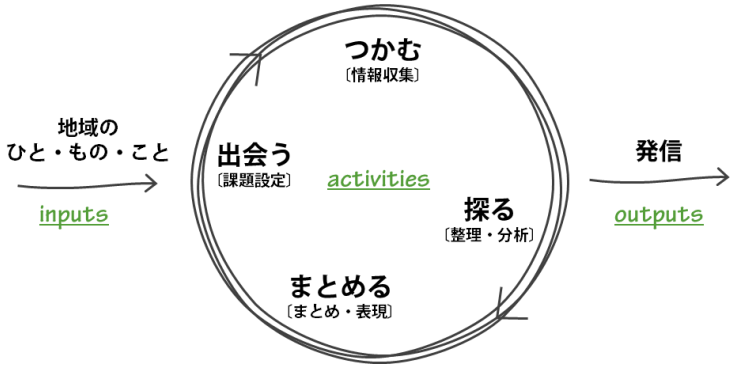
4. 質疑応答

（質問）5 年経過した今、避難先の地域が自分たちのふるさとになりつつある子供たちに対し、どのように題材と出会せればよいのか、悩んでいる

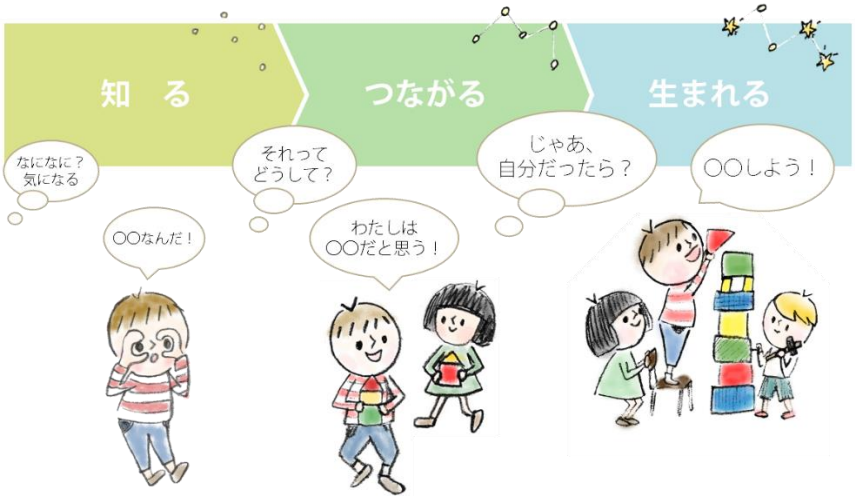
（回答）その場所に行けないことデメリットだが、人の思いは双葉郡の強み。人と関わることはふるさと創造学の学びを豊かにする。避難先での生活も含めて題材は豊富にあるはずだ

5. 資料解説：子供向けリーフレット「ふるさと創造学への招待」について

- １.学習活動のプロセス：単元単位等で探究的なプロセスをひとつの学びとして示したもの。教師として理解してほしいのは、プロセスは深まっていくものであること、そしてこのプロセスは指導段階ではなく、子供の学びの姿であること。何回まわってもどんなスピードでまわっても子供それぞれのペースでよいというイメージでとらえてほしい



- ２.成長のプロセス：子供自身が探究的な学びを通じ、どのように変わっていくか成長していくかをイメージできるように示したもの。ふるさと創造学実践事例集 P3 の探究のプロセス図が長期的な成長のイメージを表しているのに対し、単元等の比較的短期的な成長のイメージを表している



6. 閉会挨拶（畠山熙一郎・浪江町教育長）

探究的な学習のプロセスを三次元的にとらえて、台風のように渦巻きながら動き成長していくイメージを持っている。これを回し続けるためにはエネルギーが必要で、それは子供たち自身の学ぶ意欲・喜びであるとともに、教える側の持っている思い、指導力にも大きくよるものがある。

今日はその方策をご指導いただき、3 年目に向けたふるさと創造学の取組に弾みをつけられた研修会だったと思う

4） **関連資料**

- ふるさと創造学教員研修会 参加者アンケート集計（別紙添付）
- 当日映像（Google ドライブフォルダで共有）
  フォルダ名・リンク先：「160421 ふるさと創造学教員研修会資料一式」
  ※ Google Apps アカウント（@fcs.ed.jp）からのみアクセス可能です

以上